

2 横浜みどりアップ計画4か年の主な成果と課題

平成26年度から平成29年度までに実施した事業の主な成果と課題は次のとおりです。



取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

- 土地所有者の理解と協力を得ながら、特別緑地保全地区などの制度指定により森の保全が進展しました。
- 森に関わるきっかけとなるイベントや講座の開催、市民と協働で良好な森を育成するための取組などにより、市民の森への関わりが広がり、深まりました。

課題

- ・指定した樹林地の維持管理 など



取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

- 市内の水田の保全など、良好な農景観を保全するための取組が進みました。
- 農園や農体験教室、農畜産物の直売所など、市民のニーズに合わせた農とのふれあいの場が着実に増加しました。

課題

- ・農を支える担い手の不足
- ・都心臨海部等での市民と農とのふれあいに対するニーズへの対応 など



取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

- 市民との協働により、市内 **42 地区**で緑のまちづくりが進展しました。
- 多くの市民や観光客が訪れる都心臨海部で、街の賑わいを生み出す緑の創出が進展し、全国都市緑化よこはまフェアの会場としても活用されました。
- 土地利用転換などの機会を捉えて用地を確保し、緑の少ない区に緑豊かな公園が開園しました。

課題

- ・緑化を行った地域や施設管理者へのフォローアップ
- ・創出した緑花の高質な育成・管理の継続
- ・個別の市民・事業者における緑化の取組への誘導 など

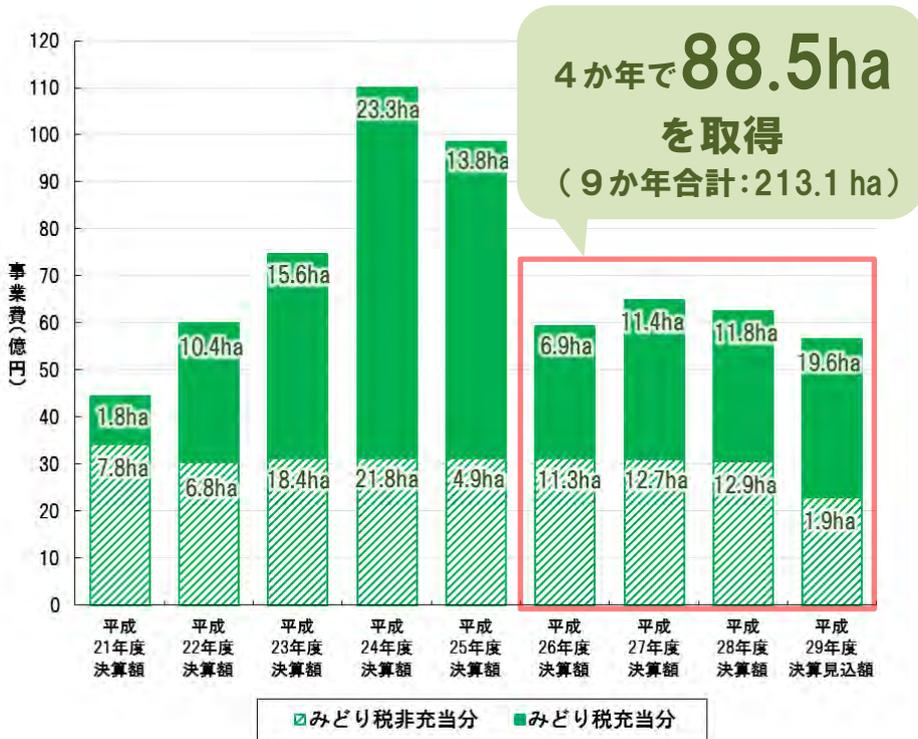
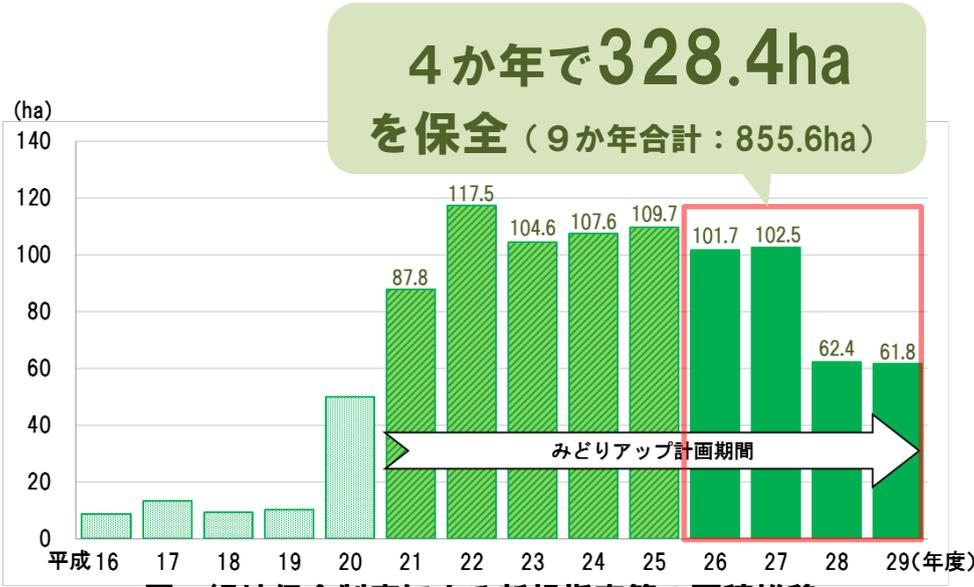
事業費・みどり税の執行状況

4か年事業費累計：36,307 百万円（うち横浜みどり税：10,062 百万円）
[5か年計画事業費：48,488 百万円（うち横浜みどり税：13,019 百万円）]

取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森の保全が進展

「緑の10大拠点」をはじめとした市内に残るまとまりのある緑地を保全して次世代に引き継ぐため、土地所有者の理解と協力を得ながら、特別緑地保全地区・市民の森・緑地保存地区などの制度指定を積極的に進めました。また、特別緑地保全地区等の指定地で、土地所有者の不測の事態等による買入れ申し出に、着実に対応しました。



森への関わりが広がり、深まる

森に関わるきっかけとなるイベントや講座を開催し、森に関わる市民の裾野を広げるとともに、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象とした研修などにより、森を育む人の技術の向上を図りました。また、市民の森や都市公園内のまとまった樹林等において、森の将来像や維持管理の考え方、作業内容を定めた「保安全管理計画」を策定し、生物多様性の保全や利用者の安全確保などのため、間伐や下草刈りなどの森の管理を愛護会等と連携しながら行いました。



鯉ヶ久保ふれあいの樹林では平成26年に保安全管理計画を策定し、下草刈りや落ち葉かきなどの森の管理と、植物などのモニタリングを、ふれあいの樹林愛護会の皆さんが継続して行っています。森の管理の結果、平成27年から平成29年までの間に希少なキンランやギンランの開花株数が増加しました。

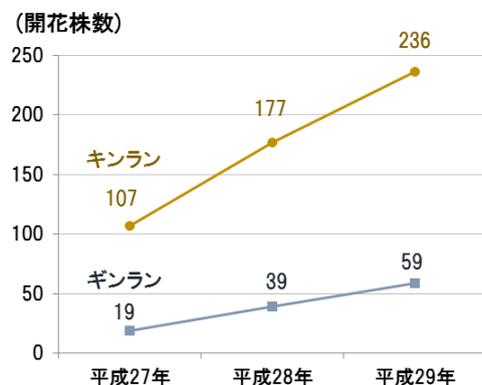


図 キンラン・ギンラン開花株数

- 指定された樹林地における維持管理の支援：405件 [5か年の目標：650件]
- ガイドライン等を活用した維持管理：のべ561か所 [5か年の目標：推進]
- 森づくり活動団体への支援：144団体 [5か年の目標：100団体]
- 4か年事業費累計：27,106百万円（うち横浜みどり税：5,759百万円） [5か年計画事業費：36,639百万円]

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

市内の水田を保全

貯水機能や景観形成などの市民共有の貴重な農景観である水田の減少を食い止めるため、水稻作付を10年間継続することを条件に土地所有者へ奨励金を交付し、市内の水田の119.8haを保全しました。



良好な農景観の保全が進展

農業者団体が実施する農地周辺の維持管理の取組を支援したほか、意欲ある担い手に農地を長期に貸し付け耕作されたことで、良好な農景観が保全されました。



- 良好に維持されている農地：675.0ha [5か年の目標：680ha]
- 長期貸付農地（累積）：109.9ha [5か年の目標：80ha]

農とのふれあいの場が着実に増加

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進めました。

また、農体験教室の開催や直売所、青空市への支援など、楽しみながら農とふれあい、農畜産物などを味わえる機会を提供しました。

気軽に農を体験する

本格的に農を楽しむ



4か年で19.2haの農園を
開設支援・整備
(9か年合計：40.8ha)



- 農体験教室などの実施：356回 [5か年の目標：500回]
- 直売所等の支援：39件 [5か年の目標：52件] / 青空市運営支援：17件 [5か年の目標：25件]
- はまふっどコンシェルジュの活動支援：86件 [5か年の目標：100件]
- 4か年事業費累計：3,224百万円 (うち横浜みどり税：1,005百万円) [5か年計画事業費：3,985百万]

取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

42地区で緑のまちづくりが進展 緑を通じて地域も活性化

地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、計画を実現していくための取組を、市民との協働で進めました。

「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の皆様から緑化計画の提案を公募し、まちづくりや緑化の専門家による計画づくりの支援を行い、平成25年度以前から継続して取り組んでいる16地区に加えて4か年で26地区の団体と新たに協定を締結し、市内42地区において、様々な緑をつくる活動が行われ、地域で緑化を推進しました。



図 地域緑のまちづくり実施地区



横浜市内の
42地区で
緑のまちづくり

街の賑わいを生み出す緑や花の創出が進展

多くの市民が時間を過ごし、国内外からも多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部の都市公園、港湾緑地、街路樹などを中心に、質の高い緑や花の整備と管理を集中的に展開し、街の魅力の形成、賑わいづくりにつなげました。全国都市緑化よこはまフェアでは、これらの公園等を会場としても活用し、多くの方にお楽しみいただきました。



緑の少ない区に緑豊かな公園を開設

緑の少ない鶴見、神奈川、西、中、南区などを対象に、多くの市民の目に触れる場所で、土地利用転換などの機会を捉えて用地を確保し、緑豊かな公園の整備により緑をつくり、街の魅力や賑わいづくりにつなげています。その第一号として、市立鶴見工業高校跡地の一角に「したのやちよう下野谷町三丁目公園」が開園しました。



- 民有地における緑化の助成：20件 [5か年の目標：65件]
- 公共施設・公有地での緑の創出：75か所 [5か年の目標：58か所]
- 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出：152か所 [5か年の目標：100か所]
- 4か年事業費累計：5,914百万円（うち横浜みどり税：3,297百万円） [5か年計画事業費：7,784百万円]

花や緑への関心が高まる ～全国都市緑化よこはまフェア～

平成29年春に開催された全国都市緑化よこはまフェアには、市の内外から大変多くの方々が訪れ、花や緑で美しく彩られた横浜の街を楽しんでいただきました。

よこはまフェア開催中に実施した来場者アンケート調査では、約93%の人が花や緑への関心が高まったと回答しており、このような取組や演出が、市民の花や緑への関心を高めることが分かりました。

また、よこはまフェアを通じて市民や地域、企業等、多様な主体が花や緑の活動に取り組むなど、花や緑を実感し、関わり、行動する機会にもつながりました。

